

中央競技団体の運営に関する調査研究

■ 調査目的

スポーツ振興の担い手である中央競技団体の現状を把握した「中央競技団体现況調査」(SSF 2011)では、スポーツの効果的な普及および強化の方策を検討する基礎資料として、わが国の中央競技団体の全体像を概観した。本研究は、上記調査を踏まえ、陸上競技とバレーボールの中央競技団体の包括的な分析を試み、その運営方法の実態を米国の中央競技団体と比較し、同一競技における二国間の違いを明らかにした。それらの結果が、わが国の中央競技団体の組織運営強化に繋がる事例となることを目的とした。



調査結果のポイント

中央競技団体の職員数^{※1}は、予算を反映していない。

職員の中で常用労働者と考えられる「正規雇用者」「契約/嘱託職員」「出向者」の合計は、日本陸上競技連盟(JAAF) 21人、日本バレーボール協会(JVA) 18人、米国陸上競技連盟(USATF) 45人、米国バレーボール協会(USAV) 59人である。明らかに日本は職員数が少ない。予算額をみるならそれぞれ20億円、31億円、15億円、12億円(1ドル80円で換算^{※2})であり、職員数は予算を反映していないことがわかる。

※1 職員数とは「正規雇用者」「契約/嘱託職員」「出向者」の合計
※2 報告書発行当時の為替レート

	職員数 ^{※1}	予算額
日本陸上競技連盟(JAAF)	21人	20億8,700万円
日本バレーボール協会(JVA)	18人	31億2,900万円
米国陸上競技連盟(USATF)	45人	15億6,000万円 (1ドル80円換算 ^{※2})
米国バレーボール協会(USAV)	59人	12億1,000万円 (1ドル80円換算 ^{※2})

競技経験者による中央競技団体の経営「競技者自治」は日本特有のものではなく、米国では制度化されている。

日本の競技団体について一般的にいわれるのは、役員が多くが競技経験者だということである。日本陸上競技連盟(JAAF)は加盟団体・協力団体からの推薦で理事候補を選び、候補者は各地域の陸上競技協会、協力団体の幹部で競技経験者である。また学識経験者として選任されている理事の中にも競技経験者が多い。日本バレーボール協会(JVA)は、常勤理事3人はいずれも競技経験者である。では米国2団体はどうか。まず米国陸上競技連盟(USATF)では、役員20%が現役のアスリートであることという規定がある。また役員も多くは陸上競技にかかわる各部門(必ずしも競技種別ではなく、ユース、コーチ

などの部門を含む)から推薦されるため、競技経験者が多い。15人の理事のうち、14人が現役の競技者ないし競技経験者である。米国バレーボール協会(USAV)でも同様に、国際的なアスリートもしくは経験者が役員20%を占めることとされている。また役員15人中10人が競技経験者である。すなわち、「競技経験者による経営」(武藤 2010)がいう「競技者自治」の傾向は、日本特有ではなく、米国にも見られるが、米国ではこれがアマチュア・スポーツ法(Amateur Sport Act, 1978現オリンピック・アマチュアスポーツ法)の規定を受け、米国オリンピック委員会をはじめ米国の中央競技団体が準拠するかたちで制度化されている。

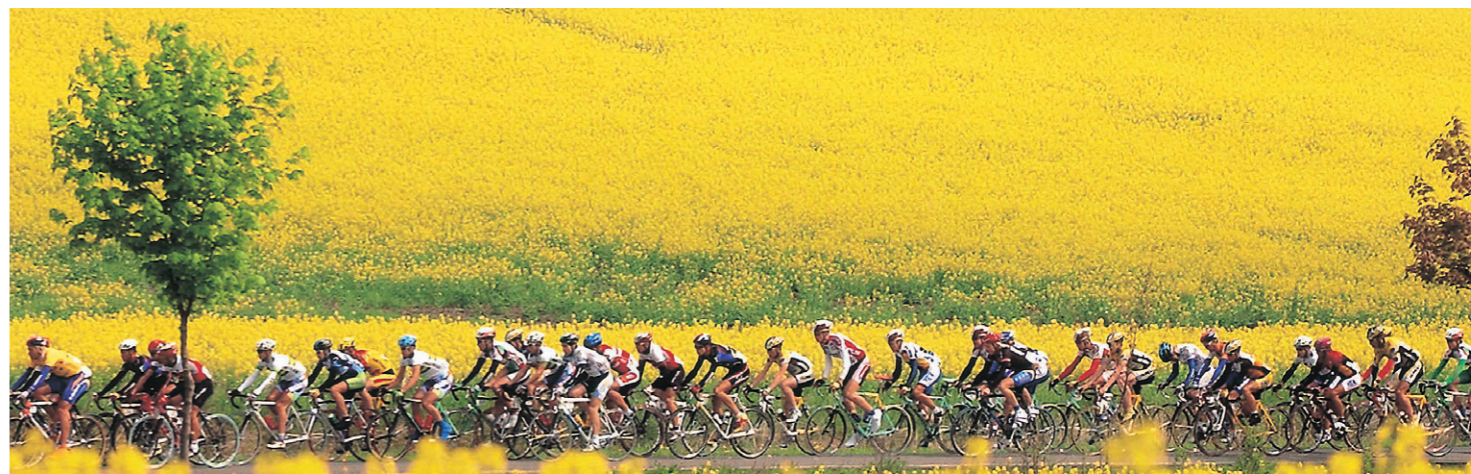
レポートの全文は、笹川スポーツ財団 ホームページをご覧ください。

(笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員 吉田 智彦)

SSF SPORT POLICY RESEARCH

スポーツ ポリシーリサーチ

MARCH 2013 VOL.2



笹川スポーツ財団は、国民が生涯を通じて、それぞれが望むかたちでスポーツを楽しみ、幸福を感じられる社会(スポーツ・フォー・エブリワン)の実現をミッションに掲げ、様々な事業を展開しています。

CONTENT

研究レポート1 スポーツライフ・データ2012

アクティブ・スポーツ人口[※]が、初めて20%を突破し、定期的な運動・スポーツ実施率も過去最高に

※「週2回以上、1回30分以上、「ややきつい」以上」の条件で運動・スポーツを実施している人のことをさす。笹川スポーツ財団が定義

「サッカー日本代表試合」のテレビ観戦率は56.7%で前回調査の1.5倍
直接観戦希望者は推計2,391万人で前回調査の2倍に

研究レポート2 中央競技団体の運営に関する調査研究

日米における陸上競技とバレーボールの中央競技団体の組織運営体制など比較
中央競技団体の職員数は、予算を反映していない

競技経験者による中央競技団体の経営は、日本特有のものではなく、米国では制度化されている

TOPICS

チャレンジデー2013開催

住民総参加型スポーツイベント
今年は101自治体(57市・34町・10村)が実施します

●実施日/2013年5月29日(水) 午前0時~午後9時

笹川スポーツ研究助成2013

優れた「人文・社会科学領域」の研究を支援
2013年度は、一般研究16件・奨励研究25件、総額2,487万円を助成

●助成実績はホームページをご覧ください。

スポーツ専門図書館 学遊館

スポーツ関連の書籍・雑誌・調査報告書など約5,000冊を所蔵
ホームページから蔵書の検索もできます

●開館日時/月曜日~金曜日(土・日・祝は休館)10:00~17:00

■調査結果、お問い合わせはこちら

ホームページ www.ssf.or.jp

電話 **03-5545-3303**

研究レポート1

スポーツライフに関する調査報告書 スポーツライフ・データ 2012

■ 調査目的

本調査はわが国の運動・スポーツ活動の実態を総合的に把握し、スポーツ・フォー・エブリワンの推進に役立つ基礎資料とすることを目的としている。特色は、「実施頻度」「実施時間」「運動強度」の3つの観点から運動・スポーツ実施率を算出している点である。

調査内容

1. 運動・スポーツ実施状況(種目、実施時間、実施頻度、運動強度)
2. 運動・スポーツ施設
3. スポーツクラブ・同好会・チームへの加入状況
4. スポーツ観戦
5. スポーツボランティア
6. 運動・スポーツへの態度
7. 日常生活習慣・健康
8. 地域や人との日常的なかかわり 他

調査対象

1. 母集団：全国の市区町村に居住する満20歳以上の男女
2. 標本数：2,000人
3. 地点数：市部190地点、郡部20地点、計210地点
4. 抽出方法：割当法

調査時期

2012年6月22日～7月22日

調査方法

訪問留置法
(調査員が回答者を訪問して調査票を配布し、一定期間内に回答を記入してもらい、調査員が再度訪問して調査票を回収する方法)による質問紙調査

回収結果

2,000人(男性:990人、女性:1,010人)

SSFスポーツライフ調査委員会

委員長：海老原 修 横浜国立大学 教授
 委員：小林 優子 東京学芸大学大学院 博士課程 委員：高峰 修 明治大学 准教授
 委員：仲澤 真 筑波大学大学院 准教授 委員：佐野 信子 立教大学 准教授
 委員：澤井 和彦 桜美林大学 准教授 委員：松尾 哲矢 立教大学 教授



2012年12月31日発行
192ページ
3,150円(税込)
ISBN 978-4-915944-51-2
Amazonブックストアより
お求めいただけます。

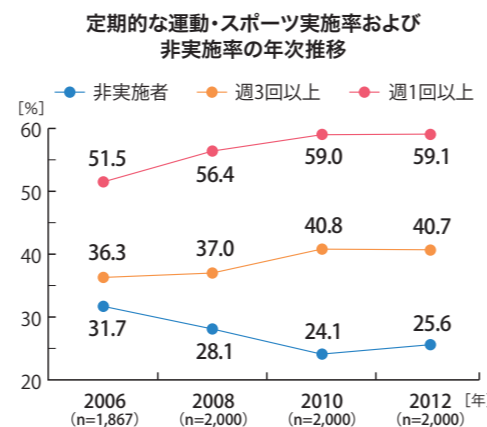
SSFの視点

「スポーツライフに関する調査報告書」からみる
健康・スポーツ政策の現在地

笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員 藤原 直幸

スポーツ基本計画に掲げられた「スポーツ実施率」 その目標値の問題点とは？

スポーツ基本計画に掲げられた成人の「スポーツ実施率」の政策目標は、「週1回以上を3人に2人(65%程度)」「週3回以上を3人に1人(30%程度)」である。SSF調査の結果(右図)をみると、2012年の週1回以上の実施率は目標に迫っており、週3回以上の実施率は既に目標に達している。これは「スポーツ実施率」の目標が、内閣府「体力・スポーツに関する世論調査」を根拠に設定されていることに起因する。内閣府調査(2009)では、「『その運動やスポーツを行った日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか?』といった質問で調査を行っているため、判明するのは年間に「週1日以上」「週3日以上」運動・スポーツを実施した者の割合であり、「週1回以上」「週3回以上」の実施率とは厳密には異なる。この違いにより、SSF調査の分析では目標値を既にクリアしているという現象に繋がっている。しかし、スポーツ基本計画が「週1回以上」「週3回以上」という目標値を設定している以上、目標値に応じた調査を行う必要があるのではないだろうか。



人々はスポーツ振興のためにtotoを購入しているのか？ -宝くじの購入者との関係-

スポーツ基本計画には「スポーツ振興投票制度については、さらに助成財源を確保するため、売り上げの一層の向上や業務運営の効率化により収益の拡大に努め、スポーツ推進のための貴重な財源として有効に活用する」とある。SSF調査(2004年と2012年)によると、わが国の成人の90%以上が過去1年間に「スポーツ振興くじ(toto)」を購入していない。また、2012年の調査で宝くじの購入経験と合わせて分析すると(右図)、totoのみの購入者はほとんどいないと判断できる(0.1%)。totoの売り上げの多くを当せん金の高い「BIG」が占めている現状に照らせば、「宝くじの購入者が、高額当せん金目当てでtotoを購入している」という図式が推察される。しかし、スポーツ推進の継続的な財源確保を考えれば「totoだから購入したい」という独自の理念と販売促進策を創案・推進する必要があるのが現状ではないだろうか。

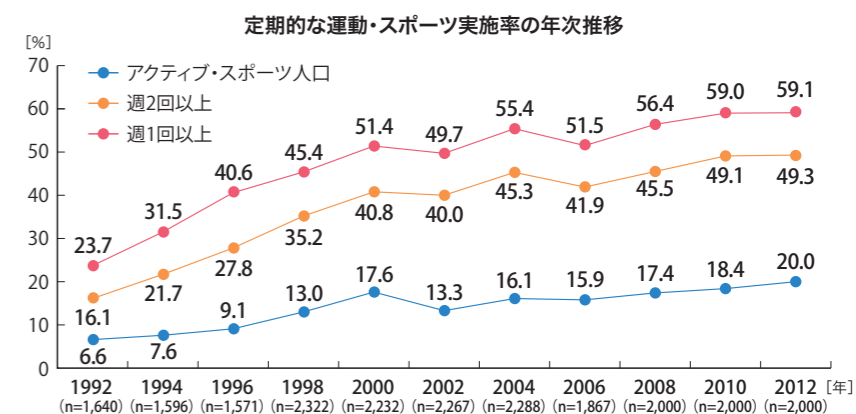
	宝くじ	購入経験あり	購入経験なし ^{※1}
toto			
購入経験あり		6.4%	0.1%
購入経験なし ^{※2}		36.8%	56.8%

※1 「過去1年間ではないが、買ったことがある」(15.2%)と「ない」(41.6%)の合計
 ※2 「過去1年間ではないが、買ったことがある」(7.4%)と「ない」(86.2%)の合計

調査結果

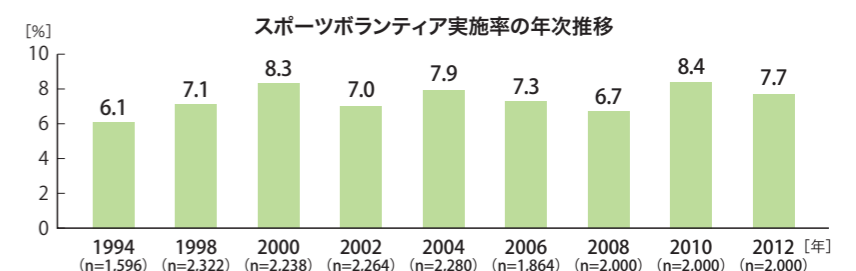
1 「アクティブ・スポーツ人口」が初めて20%を突破し、定期的な運動・スポーツ実施率も過去最高に

「週2回以上、1回30分以上、『ややきつい』以上」の条件で運動・スポーツを実施している「アクティブ・スポーツ人口」が、1992年の調査開始以来、初めて20%を突破した。「週1回以上」「週2回以上」の実施率もそれぞれ59.1%、49.3%と過去最高を記録し、増加を続けている。わが国成人の積極的な運動・スポーツ実施状況が明らかとなった。



2 スポーツボランティアの実施率は過去18年間変化せず

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者は全体の7.7%で、2010年調査の8.4%を0.7ポイント下回った。1994年から経年でみると、2010年調査時に過去最高の8.4%を記録したが、過去18年間1割以下にとどまり、ほぼ横ばいの状態にある。



3 「サッカー日本代表試合」のテレビ観戦者は1.5倍、直接観戦希望者は2倍に増加。なでしこジャパンも上位にランクイン

過去1年間にテレビで観戦したスポーツ種目は、「プロ野球(NPB)」が61.5%で1位、「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が56.7%で2位、「バレーボール(日本代表試合)」が52.1%で3位、「フィギュアスケート」が50.8%で4位、「サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)」が49.5%で5位であった(表1)。2010年調査では38.3%であった「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が18.4ポイントの上昇、今回の調査から項目に追加した「サッカー日本女

子代表試合(なでしこジャパン)」が49.5%で5位にランクインし、サッカー日本代表の人気の上昇が見て取れる。また、今後の直接スポーツ観戦希望種目(表2)をみても、1位は「プロ野球(NPB)」31.0%であるが、2010年調査では10.8%(6位)であった「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が23.0%(2位)と増倍し、「サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)」も14.7%と5位にランクインした。

表1: テレビによるスポーツ観戦種目別観戦率(全体・性別:複数回答)

順位	全体 (n=2,000)		男性 (n=990)		女性 (n=1,010)	
	観戦種目	観戦率(%)	観戦種目	観戦率(%)	観戦種目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	61.5	プロ野球(NPB)	73.3	フィギュアスケート	64.8
2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	56.7	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	59.7	バレーボール(日本代表試合)	55.9
3	バレーボール(日本代表試合)	52.1	高校野球	53.4	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	53.8
4	フィギュアスケート	50.8	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	49.7	プロ野球(NPB)	49.8
5	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	49.5	マラソン・駅伝	48.3	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	49.3
6	高校野球	49.1	バレーボール(日本代表試合)	48.1	マラソン・駅伝	47.5
7	マラソン・駅伝	47.9	大相撲	44.0	高校野球	44.8
8	大相撲	38.3	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	40.1	大相撲	32.7
9	プロゴルフ	31.2	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	37.9	プロゴルフ	25.3
10	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	30.5	Jリーグ(J1、J2)	37.4	Jリーグ(J1、J2)	22.8

表2: 種目別直接スポーツ観戦希望状況(複数回答; n=2,000)

順位	観戦種目	観戦希望率(%)	継続観戦希望(リピーター)率(%)	新規観戦希望率(%)	推計観戦希望人口(万人)	推計継続観戦希望(リピーター)人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
1	プロ野球(NPB)	31.0	11.2	19.9	3,223	1,165	2,069
2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	23.0	1.0	22.0	2,391	104	2,287
3	フィギュアスケート	20.2	0.3	20.0	2,100	31	2,079
4	バレーボール(日本代表試合)	14.9	0.3	14.6	1,549	31	1,518
5	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	14.7	0.3	14.4	1,528	31	1,497
6	高校野球	14.2	4.1	10.1	1,476	426	1,050
7	Jリーグ(J1、J2)	13.4	3.6	9.8	1,393	374	1,019
8	大相撲	12.3	0.6	11.7	1,279	62	1,216
9	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	11.9	0.1	11.8	1,237	10	1,227
10	海外プロサッカー(欧州、南米など)	11.8	0.3	11.5	1,227	31	1,196